

令和4年度第2回瑞穂市社会教育委員の会 会議録

1. 開催日時 令和4年11月25日（金）午前9時30分
2. 開催場所 瑞穂市巢南庁舎3階 3-2会議室
3. 出席委員数 8人
4. 出席委員 井深 吉男 委員
山本 邦宏 委員
長屋 正治 委員
上野 邦子 委員
松野 守男 委員
宇野 睦子 委員
広瀬 政博 委員
辻 正益 委員
5. 欠席委員 なし
6. 本会議に職務のため出席した事務局職員

教育長	服部 照
事務局長	佐藤 雅人
生涯学習課長	松島 孝明
生涯学習課総括主幹	広瀬 久士
図書館長	泉 大作
7. 日程
 - 1 教育長あいさつ
 - 2 委員長あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 令和4年度瑞穂市の主な生涯学習事業の中間報告について
 - (2) 瑞穂大学のあり方について
 - 4 意見交流
 - 5 お礼の言葉
8. 審議の経過

生涯学習課長 皆さんおはようございます。本日は朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、令和4年度第2回社会教育委員の会を始めたいと思います。それでは教育長のあいさつをよろしくお願ひしたいと思ひます。

教育長 皆さんおはようございます。早朝よりありがとうございます。昨夜の青少年育成市民会議の
時にも冒頭少しお話ししましたが、いま日本中でサッカーが話題になっていますが、私は、
日本が勝ったこともそうなんですけれども、日本選手のロッカールームの整理整頓というお話
がありましたよね。あれってやっぱり日本人が誇るべきことかなと思ひまして、結構子どもたち
が利用するときに来たときよりも美しくという指導をした覚えがありますけれども、当然自分
たちが使った部屋はきちっと綺麗にして、次の方のことを考えてというようなことというのは、
我々にとっては当たり前のことなんですけれども、文化とかお国が違えばいろんな考え方もある
なということ実は思っているところがありまして。

若いころにイギリスの大学を見る機会があつて、食堂で学生が食べ終わったり飲み終わつた
りしたら一切片付けずに帰っていくんですね。なんなんだこれはって若いころ思ひまして、聞い
たら、それを掃除する、片付ける仕事をする人がいて、それをやってしまうとその人の仕事が
できなくなるというような、そういう考えもあるのかなと思ひながら、ちょっと違うぞといふこ
を思い出しました。

子どもたちには、私たちが大事にしてきたこと、人としてあるべきことを伝え続けていき
たいなど、勝ったこともうれしいですけども、それ以上にそんなことを感じています。

今日生涯学習の事業についての皆さんからのいろいろご意見をいただくこともあると思ひま
すけれども、少しお時間いただきまして、私自身がこの事業の中で、参加させていただいたこ
を紹介したいと思ひます。今週はやっぱり文化の秋じゃないですけども、いろんな事業があり
まして、まず先週日曜日の文化講演会は 600 人近く参加いただいて、無事に開催できてほつ
としております。講演を聞かれたと思ひますけれども、わかりやすい内容で、やり続けることの大
切さみたいなことを教えてもらえたかなということをお思ひます。和田一浩さんについて私は失
礼ですけど、あんまりおしゃべりとかというよりちょっと朴訥としたというかですね、職人肌
の人かなと思ひていましたけれども、とてもお話が上手で、気さくな感じで、7年間のNHKの野球
解説の中できつと勉強されてだんだん変わっていかれた部分もあるのかなと感じました。

それから、12月にネオクラシックコンサートがありますが、このアウトリーチのコンサート
が市内各小学校でありまして、先日22日に西小学校に行つてまいりました。声楽の大久保さん
と大村さんと土方さんとピアノの重佐さんの4人の方が来てくださつていて、とても子供達
が楽しんでいる様子が見られました。

私が一番感じたことは、オペラというか声楽なので、何もなくて声を出されるんですけど
も、ものすごい迫力でどうやったらあんな声が出るのかなと感じましたし、子供は本当に意欲
的で、この曲分かる人という「はい」と手を挙げたり、やってみたい人という手を挙げて、非
常に身近になつたというかですね、オペラとかクラシックというちょっと距離があるような
気がするんですが、小さいころから身近にという意味で言うと、私はこのアウトリーチの活動
というのはとてもいいなということを感じました。

それから11月23日には文化協会の瑞穂市美術展にも表彰で行かせてもらいました。子供達
の作品も、大人の方の作品も素晴らしいなと。特に大人の方、私から見ればプロみたいな感じ
の作品がいっぱいあつて、特に写真ですね。写真がこれぞシャッターチャンスみたいな、一瞬の構
図が見事だなということをお思ひました。

そこでは少しお話をさせていただきましたが、子供達にはぜひ自分の好きなこと、得意なことをずっと伸ばして行ってほしいなという思いと、そういう一般の方の作品に触れながら、将来は一般となって参加するという動きもあると、地域に文化的なものも脈々と位置づいていくんじゃないかなと思いました。

そんないろんな事業の中で、少年リーダーの子がとても頑張ってくれていまして、地域に貢献するというので、私は学校の中だけの活動じゃなくて、そういった地域の大人の方と触れ合ったり、その会に貢献できた、役に立ったという思いというのは、彼らにとってとても貴重な経験だと思いますし、当然瑞穂市への愛着を育むことにつながるので、ぜひ育てていきたいなという事は感じています。

少し長くなりましたが、今日はこういった事業の在り方ですとか、特に瑞穂大学の今後の方向についても協議していただく内容になっておりますので、貴重な機会としたいと思います。ぜひいろいろとご意見いただけるとありがたいと思います。どうぞよろしくお願ひします

生涯学習課長 ありがとうございます。それでは続きまして井深委員長さん、ご挨拶の方よろしくお願ひいたします。

井深委員長 まずこの少子高齢化の中で、地域のコミュニティづくりというのはますます重要になってきます。ご承知の通り 3 年前にコロナが発生して、それ以来やむを得ないことかもしれませんが、瑞穂市の地域づくり、人づくりは大きく後退したような気がするんですね。

そんな中で今年の半ばごろから政府の方針もありまして、コロナ対策が緩和され、コロナ前と同じようには言わないまでも、ようやく瑞穂市の各事業も進められるようになりました。

その中で私が参加した中で 2 つすごく心に残ったことがあります。まず 1 つは、10 月に行われました、瑞穂市社会教育の重点活動にしている読書のまちみずほに関する事業、ビブリオバトルです。各小学校の代表の子が、自分が読んで感動した本を友達に紹介するんですが、どの発表も私が聞いて、私自身が手に取って本を読みたくなるような、そんな内容でした。すばらしい内容でした。まさに本に親しみ、本に楽しみ、本に学ぶという活動であったように思いますので、ぜひ今後も継続して続けていけたらいいなという。もっと広げて、一般の人にも聞いてもらう、多くの子供達にも聞いてもらえるようなそんな内容にできたらいいなと思いました。

もう 1 つは和田一浩さんを招いて行われました文化講演会です。なんか久しぶりにサンシャインホールが埋まった、そういう光景を目にしました。やっぱり NHK の野球解説者を 7 年という経験からお話も上手だったこともあって、多くの参加者の人たちで盛り上がり、それから会場が熱気であふれていた、そんな感じを受けました。それと講演会が、小学生からお年寄りまで幅広い世代で参加されていたことも、今回の文化講演会はよかったのではないかなと自分は感じました。

この先これからもコロナは続くと思いますし、ひょっとして第 8 波が襲ってくるかもしれませんが、こうした中でも感染症対策を十分にとりながら、中止にするのではなくて、コロナ禍でもできる内容を考えて事業を進めていく必要があるのではないかなと感じています。

今日上半期の事業と瑞穂大学の在り方について検討するわけですが、皆様方の意見を

たくさんいただきたいと思っております。以上です。

生涯学習課長 ありがとうございます。それでは引き続き議事の方に移りたいと思いますので、議事進行の方は委員長さんお任せしてよろしいでしょうか。

井深委員長 はいわかりました。それでは引き続きまして、議事の1令和4年生涯学習事業についての中間報告を事務局よりお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

総括主幹 令和4年度瑞穂市の生涯学習事業について中間報告をさせていただきます。生涯にわたって学び続ける人づくりに関しまして1つ目、生涯学習自主事業は今年度2つの事業を行っております。

その1つ目、親子感動体験事業、久保田雅人工作ショーを8月20、21日巢南公民館で行いました。NHK教育テレビに出演していた久保田雅人さんの工作教室に2日間で4公演、親子115組、計302名に参加していただきました。親子で工作をすることで共通体験をするという事業でしたけれども、応募もたくさんありましたし、参加者のアンケートからもすごく好評でした。親子で共通体験をすることで親子の絆を深めるという事業のねらいに合致しているということで、来年度もこの久保田雅人工作教室を開催する方向でおります。

2つ目の文化講演会は、先ほど教育長さん、委員長さんのご挨拶の中でお話をいただきました。参加者は計520名でした。サンシャインホールの光景を見るときもたくさん入っていたのではないかなということを私は思いました。実際には520名でしたが、本当に久しぶりにたくさんの方に参加いただけたということを実感しております。

あと2つにつきましてはこれからの事業です。ネオクラシックコンサート。アウトリーチコンサートについては先ほど教育長さんのお話の中でありました。今のところチケットの売り上げが120枚ほどです。あと講演まで2週間ありますので、このアウトリーチで身近に感じた子供たちが親子で来場してもらえるといいなということを思っております。皆さんにはチケットを本日配布させていただいております。ぜひ当日ご観覧ください。

みずほ演劇祭。これは3年ぶりの開催になります。4つの劇団に公演をしてもらいます。チラシを机上に配布させていただいております。このチケットについては、実はこちらに今ありません。これは岐阜県演劇協会が販売に携わっておりますので、もしご希望があればなんとか手配したいと思っておりますので、連絡いただければと思っております。

2番の市民自主講座、これは大人の講座です。前期20講座、後期は17講座を開設しており、太極拳やヨガ、書道、英語、絵画などの講座を開設し、このあとサークル活動に結びつけるような動きを作っております。

3つ目、高齢者の生涯学習の推進ということで、瑞穂大学の講座については、今年度在り方を検討するというので、先日委員さんからの意見をいただきました。後程来年度に向けての方向をお話しさせていただきます。

6番の子どもの読書活動の推進です。今年度特に、先ほど井深委員長さんのご挨拶にもありましたように、第1回読書のまちみずほビブリオバトルを開催いたしました。子どもたちが読書

に親しみ、そしてその本の魅力を伝えるという力をつけたいという思いで開催しました。先ほどの井深委員長さんのお話にもありましたように、来年度はサンシャインホールでできるといいなということも今検討しているところです。

9番の生涯スポーツの振興についてです。これまで5月にファミリーハイキング。ウォーキングの参加機会の提供ということで、滋賀県彦根市に出かけまして、63人が参加しました。

また、体育教室の開設ということでリトミック親子体操教室を6月、それから10月にかけて2回行っております。今年度もう1回行う予定です。

それからスポーツ実施率向上に向けての施策ということで、昨年度ウォーキングコースを考案し、今年度マップを全戸配布しております。机の上にウォーキングマップを置かせていただいております。校区ごとに、見やすいマップになっていると感じております。

10番施設の拡充につきましては、今年度供用を開始しましたサンコーパレットパークの活用です。今のところグラウンドゴルフ、あるいはキッチンカー、雑貨の販売、各種イベントに活用しておりますし、先日はみずほふれあいミニフェスタも開催しております。

大きく2つ目、地域で役立つとする人づくりです。3ページをお願いします。市民文化の育成ということでネオクラシックコンサート、それから文化協会の事業ということで文化フェスタ、市の美術展等に協力をさせていただいております。

2つ目、文化財の保存についてです。郷土歴史研究指導員による郷土資料の収集等についてです。明後日まで図書館で企画展、「瑞穂市水との闘い展、9.12 豪雨災害から50年」が開催されています。今年度から5年計画でこの「水との闘い展」というものを計画的に行っていく予定です。

それから市史編さん事業です。今年度発刊を予定しております。ページ数は千ページという非常に厚い冊子になる予定です。今校正を進めているところです。また、ビジュアル版も発刊いたします。またこのビジュアル版の瑞穂市の部分についてはお手元にお配りさせていただけるよう考えております。

4番の生涯スポーツ、地域スポーツの推進ということで、体育協会の支援です。今年度体育協会の方でも相撲大会、綱引き大会、そして1月に駅伝大会を、相撲大会は実施していただきましたし、綱引きは来月、駅伝は1月ということで生涯学習課としても支援をしていきます。またスポーツ推進委員の活動としまして、11月13日にゲートゴルフ大会、46名の参加で行っております。

大きく3つ目、住民による主体的なまちづくりということで、校区活動委員会の自主運営と活動支援を引き続き行っております。この校区活動委員会についても、今までできなかったところから、今年度各校区でウォーキング大会、あるいは清掃活動を進めていただいております。

2番の社会教育推進委員の研修の充実ということで、この社会教育推進委員についてはのちほどお話をさせていただきますが、この職務についてあいまいになっているとか、きちっと認識していただけていない部分がありますので、きちっと来年度に向けて説明をしていくように準備を進めております。

大きく4つ目、青少年の育成についてです。瑞穂総合クラブ、これも今年度3年ぶりに開講しております。スポーツ講座3講座、文化講座8講座を開設しまして、総受講者数241名です。

コロナ前に比べると講座数も受講者数も少ないですが、また来年度は講座も増やしていきたいということを考えております。

青少年育成市民会議です。少年の主張大会を6月に実施いたしております。また、3部会を5月と11月に行いまして、それぞれの部会の重点活動についてまた新しい動きを作り出したいということで進めております。

また少年リーダーの活動についても、3年ぶりに少年リーダーが地域で活躍する機会が今年度増えてきました。先日の文化講演会でも活動をしてもらっております。

それから、二十歳を祝う会、この名称が昨年までは成人式と言っておりましたが、今年成人の年齢が18歳に引き下げられたことから、今年度から二十歳を対象にして、二十歳を祝う会に名称を変更して行います。名称を変更するだけではなく、内容の第1部をこれまでの式典、第2部を実行委員がつくる会として、より実行委員の創造性を生かした、自分たちで創り上げる会としていきたいということを思っております。

私の方からは以上ですので、続いて図書館長さんよろしく申し上げます。

図書館長 それでは続きまして図書館の方の報告をさせていただきます。1ページをお願いいたします。一番下の(5)のところです。図書館機能の充実と市民への学習機会の提供と支援ということで、①市役所や学校、他の機関との連携により、地域を支える情報拠点として機能する図書館ということで、aのところ、6月に宮田地区の老人クラブ大宮サロンの方にかがいでまして、図書館司書の職員が読み聞かせを行いました。20名ほどの方がいらして、大変好評だったということも聞いております。続きまして牛牧地区社会福祉協議会へ図書資料等の貸し出しを行いました。

bのところでは学校とか幼稚園などの団体の貸し出しの方ですね、あと図書館の施設見学の受け入れも行っております。11月に牛牧小、西小、本田小、中小、それから12月に入りまして南小と穂積小、この6校が今のところ受け入れの申請をいただいております。

穂積小につきましては、現地ではなくてリモート開催ということで、ビデオカメラ等で撮りましてリモートで開催する予定です。

それからcのところの読み聞かせボランティア活動の支援ということで、瑞穂市PTAの方への研修を5月に2日間で行いました。

図書館サービスの充実ときめ細やかな広報活動ということで、これは例年行っておりますけれども、ホームページ上での蔵書検索とかですね。予約サービス、あるいは広報みずほでお知らせをしたり、図書館だよりを発刊したりということをしております。

続いて魅力ある図書館事業の実施ということで、5ページをお願いいたします。通年事業といたしまして、本館、分館がありますのでそちらの方でお話の会を、こちら3年ぶりに開催しております。また本館につきましては、映画鑑賞会も再開しております。

特別企画といたしまして、読書週間とか夏休みに合わせた講座の開催ということで、今年度はサンコーパレットパークの供用開始によりまして、そちらの事業と連携したイベント開催を行いました。芝生広場に読み聞かせの会場を設営しまして、2日間行いました。1日目が50名、2日目が70名の参加をいただきました。こちら大変好評で、終わってからもその親子の方がずっと本を眺めてみえたり、読んでみえたりして、大変良かったと思っております。

②の地域の課題解決や調査研究の支援ということで、本館の方では一般図書、児童書、参考図書あるいは郷土資料の充実ということで、今現在中山道や水害と治水関係の図書を展示しております。2階の郷土資料コーナーで展示をしております。

それから、先日、瑞穂の昔話をもとにした紙芝居の寄贈を受けまして、お話の会などで活用いたしております。こちらは岐阜市の済美高校で作製をしていただいたものなんですけれども、こちらをうすずみロータリークラブさんが増冊されて図書館に寄贈していただきました。分館の方では児童書の充実を進めています。

他市町の図書館の本を借りたり、あるいは他市町へ貸し出したりするという相互貸借も行っております。当館から貸し出したものについては、500冊、借り受けは860冊です。こちらは、岐阜県内はもちろん、東海とか北陸、関東地区からも貸し出し、借り受けをしています。

井深委員長 ただ今事務局の方から今まで行われていました事業とこれからの事業についてご説明がありました。この中でご質問等がありましたら。ご意見でも結構ですので、ぜひお伺いしてください。はい。宇野委員さん。

宇野委員 1 ページ目の図書館の機能の充実ということで少し捕捉説明をさせていただきます。aの市役所や他の機関との連携ということで、牛牧地区社会福祉協議会の団体の貸し出しということで、実際に私達が主催したものです。実はこれは多世代の交流会ということで、要は小さい子からお年寄りまでゲームをやるんです。ゲームをやっただけでは交流会で終わってしまうので、ゲームをやった子たちが読み聞かせへ行くという導線を作りました。そこで読み聞かせの本を、図書館の方に選定していただいたんです。その選定の協力もしていただいたということも大変ありがたかったんですけど、貸していただいて、読み聞かせをしていただいたり、そういう本にまつわる紹介をしていただいたりしました。こういうことをやったことによって、本と親しむこと、また楽しいことがあるということでこれはものすごくよかったなと思っています。また来年度もこの牛牧地区社会福祉協議会として、図書館にご協力をいただいて、こういう本の楽しさを、違う感覚でまた広めていきたいと思っています。

それからもう1つ本の関係で、郷土の昔話をもとにした紙芝居の寄贈ということで、私もこれすごく興味がありまして、図書館で紙芝居をお借りしました。高校生が作ってくださったということで、これはせっかく生徒の思いもありますので、それを無駄にすることなく、これをもう少し、例えば老人クラブでこれからいろんな催し物がありますので、私も宣伝していきますけれど、こういうものがあるからどうぞと宣伝をして広めていただきたいと思います。

質問なんですけれども、市史の編さんということで、これは販売されるんですか。

生涯学習課長 その予定になっております。

宇野委員 何部かここに書いてございませんけれども、興味のある方も多々あると思うんですよね。ちなみにいくらぐらい。

事務局長 まだ正式には決まっていませんけれども、いわゆる市史、千ページの方が約3千円、ビジュアル版も3千円で、両方買っていただくと5千円というような。両方買っていただくとちょっとお値打ちになりますよということで今考えております。

ただ、最終今千ページが本当に何ページになってくるかによって、価格の設定は変わってくると考えております。

宇野委員 前の歴史があつて、また新しいものになり今の時代も含めてということで、中学校に置いていただくとかして、皆さんに広めていただきたいなと思います。

井深委員長 今図書の方からと市史編さんの件から意見や質問がありましたが、皆さんどうですか。

市史の方は自分も少し関わっていたけど、6千円も出すなら買わないんじゃない。いくら興味があつても。やっぱりこれは市民全員に郷土の歴史を知ってもらい、郷土を愛する心を育てる。だから家に1冊あるように何とかありませんか事務局長さん。

事務局長 来年度市政20周年を記念して出しますので、ちょっとその1千ページの冊子を各世帯に1冊というのは難しいです。今回の瑞穂市史は前回それぞれの穂積町史、巢南町史が昭和50年の前半までの部分までがまとめられていますので、今回はそれぞれの旧町の昭和50年の後半からの部分と、あとは瑞穂市になってからの部分の20年間の3部構成で構成された本になっています。今財政的などころもありますけれども、全戸配布できるものとして、このビジュアル版も3部構成ですけれども、せめて瑞穂市になった部分だけでも抜粋した形で何とか財源を確保できれば、全戸配布できるように財政当局の方とも交渉しております。20周年記念のところもありますので、そういう方向で検討はしております。本を配るのは難しいです、その瑞穂市の部分だけでもビジュアル的などころだけでもなんとか抜粋してできないかということで検討しておりますので、ご了承ください。

井深委員長 わかりました。できたら多くの人にわたるといいのでね。

松野委員 今の市史の編さん。私関わっていないのでわからないですけど、やっぱり昭和50年以降の町史の以降の歴史を編さんされていると思います。それはそれで意義があるんですけども、実は穂積町史の中にごそっと抜けている部分が過去にあつてですね。というのは天王川の改修工事、今私が住んでいる下穂積とか中切が集団移転したんです。元は長良川沿いに道路があつて観音院から南のあたりのところと、観音院から東にも家があつたんですけども、新しく堤防を作るために全部集団移転したんです。その記録が穂積町史にはないんです。なんで抜けたのかな。詳しく知っている方がいなかったのか。2つの部落が集団移転したという大事業がどうして町史の中から消えてしまったのかなと。今度新しくできる時に瑞穂市史にそれが復活されるのかというのがあればいいかなと思ったのです。元町長の松野文司さんが河川改修の歴史だけを個人で編さんされたのです。残念ながらそれは限られた人しか持っていないんです。ぜひそういうのを公の資料として残していただきたいなと思います。

瑞穂市史の中にとというのはもう無理だと思うんですけども、ちょうどこの 9.12 から 50 年という水の歴史を企画展でやりますので、その中でも関連すると思うので、ぜひそちらの方で取り上げていただいて、瑞穂市の穂積町の時代からもう 100 年 200 年水との闘いをやっているんだという中で、歴史としても知っていただくといいかなと思います。

我々、下穂積の住人でも、実はそんなところに住んでいたというのは、我々の年代は知っていますが、もう 50 代以降、それより若い人は全然知らない。もう完全に消えていってしまったので、重要な歴史じゃないかなと思います。

事務局長 今言われました本は、自分史の出版への補助金で、当時の松野文司町長さんが、町長をやめられた後に作られ、本は図書館の方にあります。全く市が持っていないわけではありません。当時町長さんが職員のころにその事業に携わってこられたことを多分書かれたと思います。資料としては所有していますので、それは大切な資料として残してまいります。

松野委員 ただ、文司さんが毛筆で書かれたものでね。すごく達筆な字で。それだとちょっと読みづらい部分があるので、読みやすい活字に落として書き直すとかね。そういうこともできたらしてほしいと思います。

井深委員長 せっかくだいい歴史資料があるなら、きちっと保存して。生涯学習課の中にもその担当の方がいるんですね。臼井先生ですね。だからきちっと保存して次に生かせるようにしていただけるとありがたいなと思います。

長屋委員 今のことに通じるんですけども、各自治会で歴史ある活動をなさっているところがあるんですよ。上生津、下生津の 2 つの神社で。それに関して正月の 1 月から 1 年間を通して細かく行事をやっているし、そういったことも拾い上げていただいて。今のうちに今の歴史を事実としてピックアップしていただけたらと思います。

それともう 1 つ、中山道の活用に関して何か会議ができたのですね。中山道を土日祭日歩いてウォーキングされている方、加納から赤坂まで行かれるんだと思うんですけども、歩いていらっしゃる方がいるんですよ。それで何が一番困るかというトイレですね。向こうの河渡から美江寺、それから呂久の方ね。本当に数か所しかないんですね。それもあまり目立たない。看板を目立つような形で考えていただけたらと思います。

もう 1 つ。中山道の浮世絵ですね。東京から京都まで、宿場が 67 ありますが、図書館には浮世絵ないでしょう。

井深委員長 あるんじゃない。安藤広重の。

長屋委員 だから安藤広重とそのあとの江戸後期の中山道の 2 種類あるんですよ。安藤広重の方は復刻版でも難しいと思うんですけども、江戸時代の後半の絵なら恵那にある広重美術館に 2 万円ぐらいで売っています。加納から赤坂までの絵を図書館に並べておいていただくとか。

山本委員 今年の企画展で水害のことを扱われました。今日たまたま防災教育の担当が、瑞穂市の生津はこういうところだったという授業をしました。その時に思ったのですが、こういう調査研究した貴重な財産を活用して、学校での出前講座ができないのかなということです。瑞穂市の水害については、新しく入ってきた地域の方もその事実を知らないということがいっぱいありますので、小学校を学びにしてそこから発信するという形が取れるとよいと思います。今年1年の企画展で終わるのではなく、出前講座の形で、今後も継続的につなげていきたいと思いました。

また、来年度どういう企画展をまた考えているかわからないですけど、十何年ぐらい前に揖斐川にかかっている旧揖斐川橋梁が、国の指定文化財になっています。その部分の歴史も辿ってみても面白いかなと思います。

あと、ビブリオバトルの件ですけど、小学生6年生があれだけのプレゼンをして本を紹介するというのは、ものすごい財産だなと思いますので、あそこでノミネートされた本を図書館で紹介をしたり、また学校にもノミネートされた7冊は寄贈したりするか。お金はかかりますけど、今年作り上げた部分がそこで切れるんじゃなくてその後を考えていただくと、次年度のビブリオバトルの布石になると思いますので、ご検討いただければと思います。

教育長 貴重なご意見ありがとうございます。実は私もさっきのあいさつの中で企画展の話をしようと思っていたんですけど、時間もあまり長くなってはいけなとやめました。私も箕島先生のお話をお聞きして、写真やグラフを使ってわかりやすかったですし、瑞穂市に後世に伝えていかなければならないものだなと実感しました。実は市長も展示をみんなに見てほしいという思いがあり、12月4日の防災のイベントで展示できないかということで検討しましたが、スペースがなくてそれは断念しました。その中で、山本先生がおっしゃられた出前講座をぜひやりたいということで、担当の臼井先生の方に、せっくなので出前講座をやったらどうですかと話しました。水害について学ぶのは小学校何年生ですか。

山本委員 4年生5年生で扱っています。

教育長 そうですね。そうするとその導入か最後の方で、今まで勉強したことを実は瑞穂市でもというような話をそこでするという手もあるよねという話をしました。すると担当が学校に迷惑がかからないですかねと。お邪魔することで、学校も忙しくていろいろとやることがあるのでということを気にしていたので、まあそれは1回聞いてみないといけないねと話しました。でも今心強いご意見をいただいたので、そういう要望があるよということで、どのタイミングでお邪魔するといいいのかというのを含めて、進められるといいなという思いを持っていました。

長屋委員 せっかくですから地域の人にも見ていただくことが大切ですね。馬場東、馬場西、生津は新しい人が多く、昔のことは全然知らない人が多いですよ。だから、自治会連合会で小学校の体育館を借りて出前講座をやってもらいたいと思うんですよ。1年に1回、防災備品の資材チェックを12月にやっていますので、タイミングがいいときに合えば協力できると思います。

教育長 ありがとうございます。

井深委員長 ぜひこういう災害についても各学校区で出前講座ができればね。

山本委員 今年小学校で調査したんですけど、7校全部、4年生か5年生のどこかで総合的な学習で防災は位置づけていますので。そういうところで使えると思います。

松野委員 今の水害に関するいろんなノウハウというのは、私らの年代が9.12を経験していて、私は大学生でしたけど、それ以降の皆さんは実働として、例えば水害のあった後の後片付けの仕方とかそういうをご存知ないんですね。経験されていないし。多分私たちが活動した最後の年代かなと思うんですけど。

それって細かな経験なんですけど非常に重要なことで、例えば最近全国各地で災害があつて被災状況を見ていると、畳を水に濡らしてしまっています。水に濡れた畳を片付けるのは大変で、なんで水につく前に上げないんだと私らの年代では思うんですよ。急に水害が起きるわけじゃない。あらかじめ大体わかるので、水がつく前になんで2階に上げないのかなとかね。水が引いてから一生懸命ホースで水流しながら掃除をしているでしょ。あれも急に水が引くわけじゃないんだから。引き始めたらもうその時点で掃除をし始めないと、引いてしまってからでは出せないの、そういったことを我々は親とかその先輩の世代から教えてもらったんですね。経験があるんですけど、今の経験がない人がほとんどなので。

井深委員長 上野委員さんは当時牛牧小学校に勤めてみえなかったですか。

上野委員 ちょうどいましたね。

井深委員長 その時、牛牧小が避難場所になって、1階じゃなくて2階から船で避難をしたという。そういうような事例を後世に伝えていくとか。子どもたちに伝えていくというのはすごく大事なことになるので、ぜひそういう機会を設けてください。

松野委員 私は子どもよりも、先ほど長屋さんが言われたように、自治会の年齢が行っている人たちも経験していないので、そういう話ができたら、聞かせたらいいかなと。子どもたちに実際の話をしてたぶん全然頭に入らない。ただすごいなということで終わっちゃうので、今生活している大人、高齢者も含めて、どのように対処していったらいいかという実働のところのノウハウを話してもらった方がいいかなと思います。

井深委員長 確か牛牧小学校にその時の田口校長先生が当時の状況を記録に残していたはずですよ。

教育長 その話は企画展の箕島先生の講話に出てきました。この水害について、田口校長先生が当時

の様子を記録されたという資料を見せていただきました。

上野委員 私はその前の年まで牛牧小に勤めていました。その年にも 8 月にもものすごい水害がありました。私たちが職員研修で外に出ていた時に、テレビで牛牧の水害の様子が映りました。牛牧小に住民が避難していたのが映って、びっくりしてみんな、次の日の 1 番の電車で帰った覚えがあります。その次の年 9.12 水害がありました。田口さんは水害を何度も経験しています。

松野委員 文化講演会、和田さんの講演はすばらしかったんですけど、この日実は FC 岐阜のホームタウンデーだったんですね。私もたまたま今年スポンサー企業として招待されていたものですから、どちらに行こうか、迷っていて、最初は FC 岐阜の方。当然市長も行かれるし、県知事も当然最終戦なので見えたんですね。それぐらいのイベント、ホームタウンデーですから瑞穂市にとって重要な行事なので何で調整できなかつたのかなと。あとで聞いたら文化講演会の方も 3 月ぐらいに決まっていたと。FC の方も 2 月 3 月ぐらいで決まっていたんで、その辺の調整がなんでそこでできなかったかなというちょっと疑問で。

体育協会の立場から言うと、サッカーの子供たちは向こうに行ったんですね。それで野球はこちらに来たという感じで、子供たちも両方に分かれて、日にちが違えば両方参加できるというと思います。

それともう 1 点当日和田さんの講演会、2 階を子供たちに開放してもらってありがたかったんですけども、実はその話も途中で出てきた話で、子供たちに開放するという事になったんですが、一部の子供たちはすでに一般枠で申し込んで下の席に座っていた子がたくさんいたんです。最初からそういうのがなんでできなかったのかなと。

これはこの文化講演会だけじゃなしにネオクラシックコンサートなんかもそうですけれども、非常に参加者が少ない。今の段階では売れている券が少ないですよ。でもコンサートは大抵いつも埋まりますよね。

総括主幹 そうですね。昨年度も 300 名ほど来ていただいております。

松野委員 だからいいのかなと思うんですけど。でも、総合センターのサンシャインでやるんだからもうちちょっと千人は入りますので。もうちょっと動員する方法は何かないのかなと思います。

井深委員長 松野委員から今大事なこと 2 つ言われたんですね。1 つは各行事をやっていくときに、日程調整をきちっとする必要があるということ、もう 1 つはその会を開催するにあたって、途中で変更があった場合、特に今回の文化講演会では 2 階を開放等変更があった時は早目に知らせてほしいこと、その 2 点についてはどうなのでしょう。それと FC 岐阜のホームタウンデーは生涯学習課が担当しているのですか。

総括主幹 いえ、違います。

井深委員長 縦割りの弊害が出たということ。

事務局長 ホームタウンデーはFC岐阜の年間のホームゲームのスケジュールが決まって、そこで県内の市町村がそのホームゲームの時にホームタウンでやるんですけども、どの日を選ぶかというのがいろいろ変わってきますので、そこがうまく早い段階で調整できればいいと思います。

井深委員長 それはどこがその日に決めたのですか。

事務局長 総合政策課です。

事務局長 毎年ホームタウンデーをやっていますので、この日になるというのはだいたい決まっていますので、瑞穂市はFC岐阜のホームゲームの最終戦でやっていると思うんですけど、その最終戦の日程がどこで出てくるかというところを早くつかまないとうちの関係が。

松野委員 2月3月でもう決まっていました。

井深委員長 文化講演会はだいたい11月の第3週になってました。

事務局長 うちはそういう行事は家庭の日に当てるようにしていますので。

井深委員長 去年はコロナの関係で延期したけど、当初は11月の第3日曜だった。だからその第3日曜ということがわかっているならば、その日は避けてもらえるようにはお願いしておけるよね。だいたい文化講演会は11月の第3日曜日と決めておいて調整してほしいということです。

それからもう1点がその今の収容人数とか、途中から少年団に2階席を開放するというのは、どのあたりで決められたのですか。

総括主幹 当初の見込みとして、応募者数が600人を超えますと、1階席だけでは収まらないので2階席にも行っていただかないといけないということで、一般応募の方をできるだけ優先をしたいと考え、スポーツ少年団には案内しませんでした。応募が始まり応募人数が500名ほどでしたので、2階席は子どもたちに入ってもらえという見通しが立った上で、スポ少にご案内したということです。

井深委員長 せっかくの機会なので臨機応変に決められたということです。

井深委員長 今後のこれから下半期に行う行事について今後はこういうのがあったらいいよというアドバイスがあったら是非教えてください。

辻委員 私は子どもの読書活動のビブリオバトルに関わってきていたので、山本先生がおっしゃると

おり、紹介された本は学校に寄贈してほしいと思います。あと、今回発表者は小学校5、6年生だけだったんですけど、小学校の子たちは普段人前に出るのが苦手な子たちも発表していたんですよ。ものすごく貴重な体験を皆さんしていましたので、ぜひ小学校だけじゃなく中学校の子たちにも幅を広げて広い会場、総合センターで考えてくれているとおっしゃっていましたので、ぜひ実現してほしいなと思っています。

長屋委員 穂積北中で、ビブリオバトルをやっていましたよね。

総括主幹 昨年度、穂積北中学校の公表会で、国語の授業としてビブリオバトルを公開していただいております。

辻委員 そうですね。やっていましたね。

井深委員長 いずれにしてもね、ビブリオバトルは委員さんがすごく好評だと言ってみえたので、ぜひ来年以降もさらに拡大するような形で広く一般にも紹介しながら進めていく方向がいいのではないかと思います。

宇野委員 4、5年前だと思うんですけど、図書館でも一般の部のビブリオバトルでやられたんです。それをもう1回復活してほしいなとすごく思います。

井深委員長 図書館ではどういう方法でやられたんですか。

宇野委員 図書館の昼のスペース、開催方法は同じです。私はこういう本がいいんですという感じで皆さん発表してくださいました。

井深委員長 発表者は自由参加で。

宇野委員 事前に応募をしたかたで。今は縮小版として、自分でメッセージを書き、図書館に掲示するだけなんですけれども、

井深委員長 それは図書館が主体だね。

宇野委員 そうです。

井深委員長 今回は学校に協力をしてもらってやってきたんだけど。

宇野委員 だから大人版として以前に図書館で前もやり、ノウハウを知っている人も残っているので。

井深委員長 どうですか館長さん。

図書館長 大変いいお話を。私もそういう経験をしたことがなかったものですから、今お聞きして。

宇野委員 コロナでいろんな事業が縮小していく中で、あまりにも、コロナを怖がっていても、昨日も青少年の会議がありましたが、1人ずつ喋るだけだから、あとは聞いているだけだから。やはりそういうことも少しは前向きにいろんな行事ももう1回いいものは戻していつてもらいたいなど。

教育長 ビブリオバトルについてはいろんなご意見ありがとうございます。私も本当にやってよかったと思います。これは勝手な想像なのでいけないですけど、発表者は本の好きな子で、ひょっとしたら学校生活の中ではあまり目立たないかもしれないけれど、すごく本が好きでという部分で選ばれて、あの場で堂々と発表した子もいるんじゃないかなと思います。もっとすごいなと思ったのは、そのあとに質問をしてくださって、そこでその場で即興で考えて対応していくというのは、とても大事な力で、それもすごいことだなということはすごく思いました。

今回から「読書のまち」というのを推進していくという意味で、小学校の部ということでビブリオバトルを設けて、第1回目をやってみて、みなさんおっしゃられるようにぜひ続けていきたいなということは思っています。

実は小学校の国語の教科書を全部調べたんですけど、低学年から高学年までに「本は友達」というような、小単元があります。学年の発達段階に応じて図書館と関わる内容になっているんですね。ちょうど5年生6年生が自分の気に入った本についてブックトークをしたり、友達に紹介しようというのがあります。その発展という形でビブリオバトルにちょうどつながると思います、小学校の部ということで開催しました。

中学校でもどうかということももちろん今後検討はしていきたいんですけども、自分の思っていることを言葉にして誰かに伝えるという、わかりやすくきちっと伝えるという力をつけるという意味があると思うんです。このビブリオバトルには。

中学校では、もちろん国語の時間とかにやっていただければいいんですけど、もう一方で伝える力をつける活動としては、青少年の方でやっている少年の主張ってありますよね。私は中学生こそ、そこでもっと地域のことや、社会のことに関わって思いや考えを話してほしいと思います。今年コロナ禍で、世界のことに関わって話してくれた子がいて、「すごい中学生」と思いました。ちょっと住み分けとまでは言いませんけど、ただそういう部分をしていかないと、小学校、中学校に全部これもやる、あれもこれもとなっていくと、先生方も大変な部分もあるんじゃないかなと思っています。そのあたりはまた小中学校の先生に相談しながら見直しをして、続けていけるような体制を作っていけるといいなど、そんな思いでおります。

井深委員長 ありがとうございます。いいことだけど、市内全ての小、中学校の代表者による少年の主張だと発表者は全部で13人になり、聞いて審査するのも大変です。少年の主張は中学生の6人というのは適当だし、ビブリオバトルの7人というのは非常に適当な数だと私は感じました。

松野委員 2つ立場があって、1つは体育協会の会長として駅伝大会を今度の1月に開催するんですけども、今までのコースを変えてサンコーパレットパークを起点に周回コースを今考えています。今までのような全市をぐるっと1周回するようなコースは、運営側も大変ですし、警察の方は極力危険なことは避けてくれという意向なので。今計画はしているんですけど、残念ながらサンコーパレットパークには電源が無いんですよ。

長屋委員 放送設備がないとだめだね。

松野委員 放送設備も無いですけども、屋外電源も無くて、ポータブルの拡声器を持っていったら電池切れしちゃって、開会式ができなかったというちょっと恥ずかしい状態だったんです。

井深委員長 竣工式の時は何を持っていったのですか。

事務局長 レンタルです。

松野委員 レンタルの発電機。現地で、例えば駅伝大会をやるときにはパソコンを使っているいろんなデータをその場で処理して結果を出します。パソコンを発電機にさすのはちょっと怖いので、本当に屋外電源があったらなということを思います。もちろん音響設備も含めてですけども。これは前からお願いしていますが、それと散水設備もないんですよ。飲み水用しかないの。芝生をどうやって養生するのって思いました。散水栓もなしにだれが水を撒くのかなと思いながら、市役所の皆さん大変だろうなと思います。

もう1つ、来年の20周年記念として実行委員会で瑞穂市の紹介のビデオの映像を作るということと、もう1つモルック大会をやるということになっています。先般もモルック体験会をやらせてもらいましたし、ふれあいフェスタの時にもモルック体験コーナーを設置して、来た人に体験してもらいました。体験会は広報で流してPRしてやったら200人以上の人が集まって盛大にやれたんですけども、フェスタの時の体験会はなんにもPRなしで、その場に来た人にどうぞとやったら、それでも230人の人が1日で参加していただきました。その時もハンドマイクでやったんですけども、せめて電源だけでもというお願いでございます。

これからもモルックの体験会を毎月第3日曜日にやるということが決まりましたので、広報なんかにも載せてもらいながら、どんどんどんどん広めていきたいと。養老町がモルックの連盟を作ったので、瑞穂市が1番にやるぞと言って意気込んで企画していたんですけど、先を越されてしまいました。今後瑞穂市で競技人口をどんどん増やして行って、瑞穂市の1つの競技にしたいなと考えてます。

スポーツ推進委員の皆さんにも協力していただいてやっているんですけど、スポーツ推進委員の皆さんはゲートゴルフはもう20年ぐらいやってみえますので、そちらをやりたいというような意向もあるみたいですけども、ぜひ協力していただきたいなと思います。以上です。

井深委員長 安全面のためには非常に必要なことですし、いいことだと思うので、予算的な裏付けがい

るかもしれませんが、ぜひご検討くださいということです。よろしくお願いします。

残り 10 分になりましたが、2 つ目の議題の大学の在り方についてちょっと皆さんにご意見をいただきたいと思いますが。広瀬委員さん。

広瀬委員 私は脳力活性と、あと女性学部の講演を聞きに行きました。脳力活性では、あの時は脳トレーニングをやらせていただきまして、非常に楽しかったです。ただ、あれに参加された方は 9 人しかいなかったんですね。だからもうちょっと参加者が増えたらなと思います。内容的には非常に楽しいものでした。

井深委員長 わかりました。ありがとうございます。せっかくの楽しい、いい会議なのでもう少し参加者があればなというご意見でした。

宇野委員 全部の学部に出さしてもらいました。私は、女性を区別することなく、寿学部として 1 つにしてやっていただいたほうがいいのかなど。その中でいろんなメニューを考えていただければいいと。

もう 1 つ、脳力活性学部、あれも本当に参加をしたい人もいるので、もう少し来年は広めていただければいいかなと思います。それから地域の方でいろんなことをやられる方がいると思うので、そういう方を講師として教えていただけたらいいんじゃないかと思っています。

井深委員長 今一番大きな提案で、大きく変わろうとしているのは、女性学部と寿学部という 2 本立てになっています。伝統的に女性学部と寿学部がありますが、こういう時代ですので、男の人も女の人も区別なく、1 つの学部にしてはどうかということでご提案があったんですが、他の皆さんどうですか。

上野委員 寿学部というのはそもそも老人クラブ単位で、本人の意思に関係なくそこに所属しているという傾向があるんですね。だから私も地域の老人クラブに入っているんですけど、どうも寿学部に入っているようですという感じになるんですね。女性学部は自分の意志で入っているんですね。だから出席率が違ってくると思うんですけども。だから入るときに意思を確認して入る。私も担当していた時期がありますが、入ってもらうということを確認している時代は結構出席率が高かったかもしれない。それから、その担当の人たちが集まって、運営の仕方や内容についての意見を吸い上げてやっていました。

今言われたように、中身を考えて、そしてともに高齢者じゃなくて社会人として学習していく、生涯学習に携わっていくという方向がこれから求められていることかなと思いますね。周りを見てみると、女性とか、男性にはないけど、女性だけが特別に学習しないといけないこととしてやっているところってほとんどない。

井深委員長 少ないと思う。

上野委員 かといってこの女性学部だからと言って、女性として何を学習しないといけないのかという立場でこれが組まれているかということとそうでもない。

井深委員長 寿学部を見てみたら、男の人も女の人も参加している。

上野委員 はい、そうですね。

井深委員長 当然だけど。女性学部って男の人が参加しているのでしょうか。

宇野委員 参加してみえた。私が行った時は、ご夫婦かもしれないんだけど、男性の方もみえて、そういうことも。

上野委員 やっぱり時代の流れだね。

井深委員長 女性学部でも男の人いるのでしょうか。

宇野委員 みえました。私の時は。

井深委員長 どのぐらい。

宇野委員 いや本当に数人、2人ぐらい。

上野委員 所属しているんだろうか。その時だけ聞きたいと言って行かれたのかもしれないね。

井深委員長 一本化したら講座の数は半分になるよね単純に。

総括主幹 そうですね。

松野委員 女性学部というと、60歳以上に限らず、20代も30代も成人女性であればね。

上野委員 成人女性ね。だから若い方もたまに見えます。

松野委員 一緒にしちゃうとどちらの元々の会が、寿大学というイメージがあると、若い人が参加しづらくなってしまわないですか。逆に。

総括主幹 今の実際の状況としては、女性学部といっても、ほぼ100%高齢の方ですよ。ですのでそんな20代30代という方はいらっしやらないのが現状なんです。

松野委員 だからもう男女別で関係なしに瑞穂大学として。ただ瑞穂大学という名前だとどうしても高齢者のイメージが。

井深委員長 そんなことないでしょう。瑞穂大学だったら。寿とつけると年寄りかなという感じがするけど、瑞穂大学にすればイメージは悪くないよ。

上野委員 そうすると、学習内容を豊かにしていくわけですよ。今までは分けてやっていたのを月に2回にするとか、そのようにして学ぶチャンスを。例えば女性学部のこの日なら空いてるからいけたのになと思う会員の方が見えたときに行けない。でも2回あればどちらかは学習する機会ができるかなとか。そのように考えていくとそういう機会をたくさん設けるという意味で男女一緒にするとかね。そういう考え方もあるかなと思います。

井深委員長 私の知り合いのかたも時間があるときは毎回は行っているけど、講座の内容じゃなしに自分の友達が行くから行くという。後で友達と喫茶店にいったとか、食事してきたというのはよく覚えているけど、講座の内容はあまり関係ないようです。

上野委員 私が担当しているときに、喫茶店から問い合わせがありました。

井深委員長 それでも私は大事だと思うんです。外へ出て、違う人たちと触れ合ってくるということだけでも意味があるので、やっぱりこの事業は続けていかないといけないと思うし、ただ、こういう時代に合わせて皆さんの意見を聞いていると、男子女子と分ける必要はないんじゃないかなと思います。

総括主幹 ありがとうございます。この4ページの資料の3点を事務局の方から提案という形をとらせていただいております。確認させていただくと、1つ目は今後受講者にアンケートを行って、これからの講座内容の検討に生かしていくこと。

それから2つ目として今話題になりましたが、来年度からは男女として受講生の募集を行うと。これ60歳以上と区切らなくてもよろしいですかね。そうすると。

辻委員 それについて。ちょっとこのお話があって、年齢制限を撤廃しようかという議題があったと思うんですけども、その中でもやっぱり60歳以上と今提示してあるのは、あまり幅をなくしすぎると受講内容もすごく幅が広くなっちゃって、今来ている方たちが来づらくなる可能性もあるということで60歳以上の男女というくくりにしたと思います。

あともう1つは、テーマとかビジョンがあったほうがいいよという話もしたと思うんですが、将来の目的とかビジョンが明確にされていないので話があっち行ったりこっち行ったりしているのかなと思うので、やっぱりそこは瑞穂大学の在り方、テーマ、ビジョンというのは明確にしていける必要があるのかなとは改めて思いましたので、ご意見として申し上げたいと思います。

総括主幹 ありがとうございます。

上野委員 この年齢なんですけれども、もう少し若い方も参加したい人もいると思うんですね。きちっと切らないでおおよそとかでいかがでしょうか。女性学部の時は50代の人もいました。そういう人たちが来れなくなるんじゃないか。こういう人たちも、60歳前後、おおよそ60歳、何かわからないけど、何かそこら辺の幅があるといいなと思います。

総括主幹 わかりました。ではこれについてはまた3回目に提案させていただきます。

3点目ですが、社会見学の参加料ですね。世間的にもいろんなものが値上がりしております。当然バスの借り上げ料も上がっておりますので、来年度からは1人2千円の参加料をいただくという形で考えております。

井深委員長 そうだね。千円ではやっぱり。ということです。一応2つの議案は皆さんからたくさん意見をいただきましたので、また事務局の方でいろいろ考えていただきたいと思います。それではこれですべての内容が終了しましたので、進行を事務局の方に戻します。

生涯学習課長 それでは続きましてその他の方に移りたいと思います。その他の方といたしましては、私のほうから、社会教育推進委員さんの役割というのが今までぼやけた部分があるということで新年度に向けてその辺をはっきりさせていただきたいという部分がございますのと、実は昨年度からになります。今現在生涯学習課で所管をしております校区活動の方を市民協働安全課の方に一本化をしようではないかというような動きがございます。

市民協働安全課ですと自治会長さんとか自治会を担当してまして、生涯学習課でも社会教育推進員さん、自治会さんを通じてお世話になっているわけなんです。どちらも自治会を担当しているという部分で、そのあたりを一本化というようなことで市民協働安全課さんのほうに校区活動のほうを移管してはどうかという形で今動いております。

もともと小規模地方自治ということで、自治会連合さんのほうで運営をしていただける部分については、ある程度お任せをしてもいいのではないかとということで、自治会連合さんの枠の中に社会教育推進員さんですとか、校区活動なんかの福祉部会があったりだとかということで、連合会さんの中の位置、部会といいますかそのような扱いで運用していくというような形で一本化を考えております。

具体的にちょっと令和5年度から実施できるかどうかというのは確定として申し上げることはできませんが、生涯学習課のほうから校区活動に限った部分について、市民協働安全課さんのほうで所管をするような動きがございますので、この場をお借りしてご報告をさせていただきます。

教育長 誤解があってはいけないんですけれども、社会教育推進員自体は教育委員会の生涯学習課が当然管轄で進めていきますので、特に2番の社会教育推進員の職務で、2番、3番、4番の部分ですよね。それについては今まで通り社会教育推進員の仕事としてこれまでもやってきました

し、これからもやっていく予定であります。ただ、今話があったように、自治会にかかわることは見直しをかけるというそういう話であって、社会教育推進員が動くわけではないので、ちょっと誤解のないように。

井深委員長 そうだね。これを見ると社会教育推進員の仕事は全く一緒だもん。変わったことはない。

教育長 これを出させてもらったのは、これはうちの反省点ですけれども、社会教育推進員の任期は基本2年なんですけれども、自治会によっては1年交代のところがあって、今年やらせてもらっていて、十分その辺の役割が伝わっていないのではないかなということをお自身も感じています。社会教育推進員になったから会合に来たみたいな感じのところがあったりしたので、もう1回この機会に職務について、特に生涯学習課にかかわることだと2番、3番、4番が中心になると思うんですけれども、そういうことを丁寧に伝えながら、より一層本来の役割が推進できるようなことをしていくという話をさせてもらったので、今回あらためて社会教育委員の皆さんに、この役割、自治会もあるんですけれども、こういうことで行きたいと思うんですがどうですかというご提案だと。ということでもいいですか。

井深委員長 これはこの場も必要かもしれないけど、自治会長会ね、4月に行われる。それではっきりと言うことと、この社会教育推進員の会があるはずですね。その時にも必ずここに書いてあることを念を押してもらいたいね。

総括主幹 ありがとうございます。2月に各自治会の自治会長さんが集まる会がありますので、そこで説明させていただきます。

上野委員 私たちも自治会連合で昨日話し合いしていて、この社会教育推進員さんに自治会の活動もお世話になっているんですね。今までは、社会教育推進員さんのいわゆるお礼みたいなものは生涯学習課から出ているから自治会のほうからは無しになっていたわけですね。ところがこのコロナ禍で、ほとんど校区活動の行事がないので、報酬は少ないという話を聞きました。自治会ではいろんな活動に参加してもらってやっているんで、こちらのほうからじゃあお礼を出そうかとすると、社会教育推進員さんのお礼については生涯学習課から出ているので、例えば私たちの活動として市からもらっているお金の中から払うことはできませんと。そうすると今話を聞いていると、これから向こうのほうに入っていくと、こういう場合にもお礼は市からそのお金で払えるってことになるってことですかね。

教育長 検討材料で、そういうことがまた生まれてくるということですね。

上野委員 社会教育推進委員さんがこういう仕事をするんだということをわかって受けていただいていると思います。だから会合に行かれても、これを聞かれたらたぶんびっくりするだろうなって思いました。

生涯学習課長 ありがとうございます。議題、議事すべて終わりましたので。本日は闊達なご意見、ご議論ありがとうございました。終わりにあたりまして、事務局長がご挨拶申し上げます。

事務局 予定をしておりました時間を超過し、熱心にご協議いただきましてありがとうございました。また皆さんには昨夜の青少年育成市民会議から引き続きということで大変ありがとうございました。来年市制20周年を迎えるんですけれども、今お話しいただいた様々な事業ですけれども、瑞穂市が誕生する合併の時に、旧穂積町、旧巢南町のそれぞれの事業をすり合わせてやってきたところで今まで来ましたが、ここへきていよいよいろんな社会情勢なり、人口構成も変わってきて、瑞穂市オリジナルの事業を展開していく時期に来ているのかなと思っております。その辺のところでも皆さんのいろいろ専門的なご意見をいただきまして事業を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます、閉会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。